

2022 Jul.

リハ めいる

情報共有ができない組織は破綻する？！



“情報共有が大切”とよく言われていますが、皆さんはその大切さを理解し、業務を行う上で意識をしているでしょうか。当たり前のことですが、情報とは個人がもつ知識や知り得た内容のことであり、それを“共有”するとは複数の者でそれを一緒に使えるようにする、またその認識を合わせることです。つまり、利用者支援においては各々の支援の内容や方向性のズレを防ぐ意味で不可欠なものであると言えます。今回は情報共有について改めて考えてみます。

情報共有が不足している職場でみられること



①個人プレーが多い

情報共有不足だと各々が自己流で仕事を進めてしまいます。そのため技術の蓄積ができない、同じ人に何度も同じことを聞いてしまうなど業務が非効率的になります。

②チーム力が低い

情報共有不足から相手への不信感が増し、その結果チーム連携が困難となります。

③心理的安全性が低い



心理的安全性とは簡単にいうと、職員が不安なく安心して意見が言える状態をいいます。これが低いといわゆる“風通しが悪い”状態となります。

情報共有が不足する原因



自分の持っている情報は他の人からみたら大切な情報かもしれないという意識も必要だね

①情報共有の仕組みやルールが整っていない

②情報共有に対する意識が低い



重要！情報共有を円滑にするための対策

①ルールを明確化する

いつ、何の情報、どの程度、誰に、どのように(口頭 or 書面など)、何のために伝えるのかがわからないと日々の忙しさにのまれて、つい後回しとなりがちです。それを回避するには明確なルールが不可欠です。

②情報共有はより良い支援のためのツールであることを理解する

情報共有を行うことで支援の方向性や方法が明確となることで、困りごとや悩み事が解決し、よりよい支援への近道となります。

③相手・自分を知る

相手の職種についてよく知らなかったり、相手の立場がわからないとつい「なんで理解してくれないの？」と相手に対して不満をもってしまい、共有された情報が活かすことができません。また、我々には無意識にさまざまな認知的偏り(バイアス)が働いており、相手からの情報を歪んだ形で受け取ってしまうことがあります。効果的な情報共有を行うためには、相手だけでなく、自分の状態にも目を向ける必要があります。

<認知バイアスの例>

- ・確認バイアス・・・自分にとって都合の悪い情報は受け入れず、都合のよい情報のみに目を向けてしまうこと
- ・内集団バイアス・・・自分が属する集団を他集団より高く評価すること